

令和7年度第三者評価 改善状況報告書

令和8年3月31日

施設名	港区立特別養護老人ホーム白金の森（短期入所）	施設所管課	保健福祉支援部 高齢者支援課
所在地	港区白金台5-20-5	指定管理者	社会福祉法人 奉優会

改善すべき指摘内容等	対応事業者 (共同事業者の場合記入)	令和8年3月までの改善状況等 (指定管理者記入欄)	令和8年4月以降の取組予定 (指定管理者記入欄)	所管課確認欄 (施設所管課記入欄)
法人では個人情報保護規程、文書・記録管理規程等を策定し、施設では規程等により文書の管理・保存・廃棄・開示請求へ対応している。また、重要事項説明の際、利用者家族には個人情報の取り扱い文書に同意を得ている。さらに、個人情報に係る書類は鍵付き書庫に保管し、利用時にはダブルチェックを行う等、リスク管理を徹底している。併せて、業務支援システムは、ITとパスワードによるアクセス制限を行うなど、情報の漏洩防止の徹底を図っている。しかし、取引先へのサプライチェーン攻撃が増えているため、情報漏えい対策の一層強化が望まれる。		個人情報保護規程及び文書・記録管理規程を整備し、各規程に基づき文書の作成、管理、保存、廃棄並びに情報開示請求への対応を適切に実施している。また、利用開始時の重要事項説明において、利用者及びご家族へ個人情報の取扱いに関する説明を行い、同意を得ている。さらに、業務支援システムについては、ID及びパスワードによるアクセス制限を設けることで、個人情報の適切な管理と情報セキュリティの確保に努めている。	委託先との機密保持契約について定期的な確認を実施するとともに、情報セキュリティに関するチェック体制の強化を図っている。また、より安全な情報管理体制の構築に向けて、多要素認証の導入を検討している。あわせて、職員を対象とした標的型メール訓練や情報セキュリティ研修の充実を図り、情報セキュリティに対する意識向上と知識の習得を推進している。今後も施設全体で情報漏えい防止対策を継続的に強化し、安全かつ適切な情報管理に努めていく。	規程整備や文書管理、同意取得、アクセス制限等により、個人情報保護に係る取組は実施されているものと考えられる。今後の対策強化の方向性も示されており、情報漏えい防止に向けた取組の一層の推進が求められる。
レクリエーション委員会を設置し、「生きがいをみんなで見つけます」をキャッチフレーズに利用者が楽しめるレクリエーションを企画している。ボランティアの協力を得て、年間を通じて毎月、様々な企画を実施している。4月の花見、6月のドライブ、7月の七夕、9月の敬老会、10月の旅行、1月の獅子舞い、3月の雛祭りなど、様々な企画により、利用者を楽しんでもらっている。一方、施設では、顧客満足度の向上のため、新規イベントの企画・開催を課題としている。課題解決に向けた取組が望まれる。		レクリエーションの充実を目的としてレクリエーション委員会を設置し、年間を通じて毎月様々な行事やイベントを企画・運営・実施している。具体的には、4月の花見、6月のドライブ、7月の七夕、8月の納涼祭、9月のご長寿祝賀会、10月の旅行、1月の獅子舞、3月のひな祭りなど、季節感や地域性を取り入れた多彩なレクリエーションを実施し、ご入居者の楽しみや生きがいづくり、生活の質の向上に努めている。	利用者の多様なニーズや生きがいづくりに対応するため、利用者参加型の企画立案を推進するとともに、多世代交流や地域住民との交流事業、ICTを活用した体験型プログラム等の新規イベントを計画的に導入する。また、利用者アンケート等を活用し、顧客満足度の向上につながる魅力あるイベントの企画・開催に取り組んでいく。「地域交流」「多世代交流」「外国人住民との国際交流」「利用者主体の企画」の4つの視点を入れて新規イベントを企画・開催していく。	年間を通じたレクリエーションは継続的に実施されている状況である。今後予定している利用者参加型企画や多世代交流等の取組により、短期入所利用者の満足度向上に向けた更なる充実が望まれる。
レクリエーションでは、ボランティアセンターや関係者を通じて、地域住民のボランティア活動の協力をお願いしている。お琴の演奏、ハンドベルコンサート、フラダンス、書道、朗読会、音楽療法など、様々な体験を通じて利用者の生活の質（QOL）向上に役立っている。また、地域住民の協力への恩返しとして、職員は地域イベントに参加するほか、防犯パトロールなどに協力している。一方、施設では新規のボランティアの開拓を進めたいと振り返っている。「スケッター」なども活用し、ボランティアの開拓を進めることが望まれる。		ボランティアセンターや関係者を通じて、地域住民のボランティア活動の協力をお願いしており、琴演奏、ハンドベルコンサート、フラダンス、書道、朗読会、音楽療法など、様々な体験を通じて利用者の生活の質（QOL）向上に役立っている。また、職員の地域イベント参加や防犯パトロール協力に加え、「スケッター」活用でのボランティア獲得も着々と実績を積み上げていっている。	当施設では、従来からの地域ボランティアとの連携に加え、「スケッター」を活用したボランティア募集を実施しており、新たな活動者の受け入れと活動機会の拡充を進めている。その結果、多様な特技や経験を持つ地域住民の参画につながり、利用者に対して幅広い交流や体験の機会を提供している。今後も地域ニーズや利用者ニーズを踏まえながら、新たなボランティア資源の発掘と継続的な関係づくりに取り組み、地域に開かれた施設運営の推進を図っていく。また、長年にわたり利用者の生活を支えてくださっている地域ボランティアの皆様への感謝の気持ちを込めて「ボランティア感謝祭」を開催し、交流と感謝を伝える機会を創出していく。	地域ボランティアとの連携に加え、「スケッター」の活用による取組が進められている状況である。今後は、短期入所の特性も踏まえつつ、ボランティアの多様な担い手の確保と継続的な関係づくりを図ることが重要である。